

☆待降節第4主日(12月24日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (サムエル記下 7 章 1-5、8b-12、14a、16 節)

ダビデ王は王宮に住むようになり、主は周囲の敵をすべて退けて彼に安らぎをお与えになった。王は預言者ナタンに言った。

「見なさい。わたしはレバノン杉の家に住んでいるが、神の箱は天幕を張った中に置いたままだ。」

ナタンは王に言った。

「心にあることは何でも実行なさるとよいでしょう。主はあなたと共におられます。」

しかし、その夜、ナタンに臨んだ主の言葉は次のとおりであった。

「わたしの僕ダビデのもとに行って告げよ。主はこう言われる。あなたがわたしのために住むべき家を建てようというのか。わたしは牧場の羊の群れの後ろからあなたを取って、わたしの民イスラエルの指導者にした。あなたがどこに行こうとも、わたしは共にいて、あなたの行く手から敵をことごとく断ち、地上の大いなる者に並ぶ名声を与えよう。

わたしの民イスラエルには一つの所を定め、彼らをそこに植え付ける。民はそこに住み着いて、もはや、おののくことはなく、昔のように不正を行う者に圧迫されることもない。

わたしの民イスラエルの上に士師を立てたところからの敵をわたしがすべて退けて、あなたに安らぎを与える。主はあなたに告げる。主があなたのために家を興す。あなたが生涯を終え、先祖と共に眠るとき、あなたの身から出る子孫に跡を継がせ、その王国を揺るぎないものとする。わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる。あなたの家、あなたの王国は、あなたの行く手にとこしえに続き、あなたの王座はとこしえに堅く据えられる。」

答唱詩編（詩編89）

神のいつくしみをとこしえに歌い、主のまことを代々に告げよう。

わたしはしもべダビドを選び、とうとい油を彼に注いだ。
わたしの手はいつも彼とともにあり、わたしの腕は彼を強める。

いつくしみとまことは彼とともにあり、彼はわたしによって高められる。
彼はわたしに呼び掛ける。「わたしの父、わたしの神、わたしの救いの力。」

わたしのいつくしみは永遠に変わることなく、わたしの結んだ契約はとこしえに保たれる。
わたしは契約を破らず、約束したことばを変えない。

第二朗読（使徒パウロのローマの教会への手紙 16章25-27節）

神は、わたしの福音すなわちイエス・キリストについての宣教によって、あなたがたを強めることがおできになります。この福音は、世々にわたって隠されていた、秘められた計画を啓示するものです。その計画は今や現されて、永遠の神の命令のままに、預言者たちの書き物を通して、信仰による従順に導くため、すべての異邦人に知られるようになりました。この知恵ある唯一の神に、イエス・キリストを通して栄光が世々限りなくありますように、アーメン。

福音朗読（ルカによる福音書 1章 26-38節）

そのとき、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。天使は、彼女のところに来て言った。

「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」

マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。すると、天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みを

いただいた。あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」

マリアは天使に言った。「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませんのに。」天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になっている。神にできないことは何一つない。」マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」そこで、天使は去って行った。

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

皆さまお元気ですか。急に寒くなりましたね。今年の待降節はとても短く、今日の夜にはクリスマスミサが行われます。教会にはいろいろな人からクリスマスのミサは何時からですかと電話がかかっています。信者でない方でもクリスマスは特別の日なんですね。この何年か制限のあるクリスマスミサでしたから、たくさんの方が来てくれると嬉しいですね。さて今日のミサでは神の御業は人の考えと異なると教えてくれます。どんなことでしょうか。

第一朗読（サムエル記下 7 章 1-5、8b-12、14a、16 節）

このサムエル記ではダビデ王が主の住まいが天幕では申し訳ない。立派な家を建てようと決めたことに関し、主は預言者ナタンを通して応えられます。「あなたがどこにいても私はともにいる」と。そして「その王国はゆるぎないものになる」とおおせになられるのです。つまりダビデ王の善意にはるかに勝る恵みをもって応えられるのです。神の導きに忠実であることが私たちの救いにとって最善の道だということです。

答唱詩編（詩編89）

詩編作者はこのダビデに対する神の忠実ということを通して、救い主イエスのことを私たちにつたえています。イエスの姿には常に父である神の恵みの姿、慈しみの姿があるのです。ダビデに対する堅固な約束は、神に対して忠実な人への堅固な約束でもあるのです。

第二朗読（使徒パウロのローマの教会への手紙 16章25-27節）

救いの秘められた神秘についてパウロは書き記します。「この計画は今や現わされて、..すべての異邦人に知られるようになりました」と。イエスによる救いです。このイエスについて多くの預言者たちが預言の中で、救い主につて語っているのです。

福音朗読（ルカによる福音書 1章 26-38節）

マリアへのお告げの場面が読まれます。よく読めばとても不思議な場面です。まず、天使の現れを受け止めたことです。普通であればびっくりして逃げ出すことでしょう。自分の身にこのようなことが起こることは普通にあることではないからです。私たちの社会でも転任命令でどこそこに行きなさいと言われることがありますが、天使が現れることはありません。マリアはきっと天使の存在を信じていたのでしょうね。またマリアは天使の言葉に即座に応えます。「この身になりますように」。神の永遠の計画はたった一人の少女の「はい」によって実現したのです



待降節第四主日で四本のローソクに火がともりました。

P.S.

クリスマスは誰にとってもうれしいものです。でも、クリスマスを喜びのうちに迎えられない人たちもいます。寒さの中、食べ物がない飢えに苦しむ中、住む家がない中でイエスさまは私たちのためにお生まれになりました近所の方に一つでもクリスマスの喜び、微笑み、声掛けをしましょう。メリークリスマス！

**カトリック足立教会
主任司祭 野口重光**